

「海・空・子どもプロジェクト」

2023年度 日本財団 海と日本プロジェクト

【報告書・資料編】

事業名：病弱児童・生徒の海洋教育協働探究カリキュラム開発
プロジェクト（海と日本 2023）

事業期間：2023. 5. 1-2024. 3. 31

団体名：海・空・子どもプロジェクト実行委員会



宮古島の海中撮影に行ってきました！

第2回全体会 資料
宮古島海中撮影
担当：佐々木・西野・
ダイビングショップ海猿
文責：西野

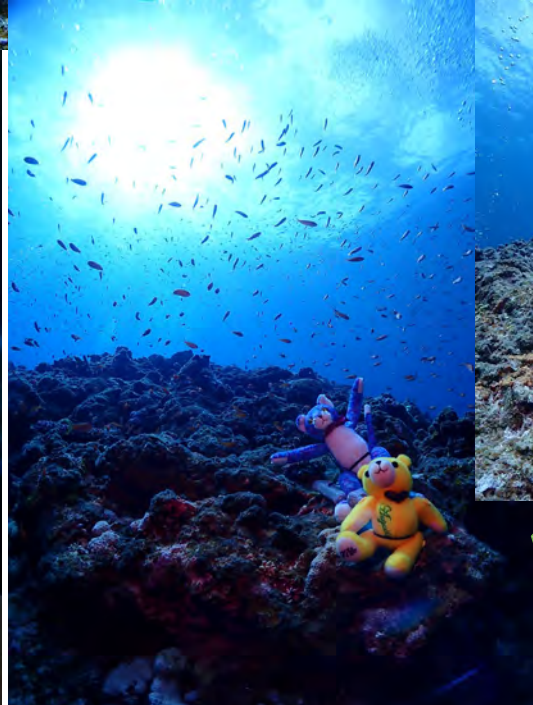
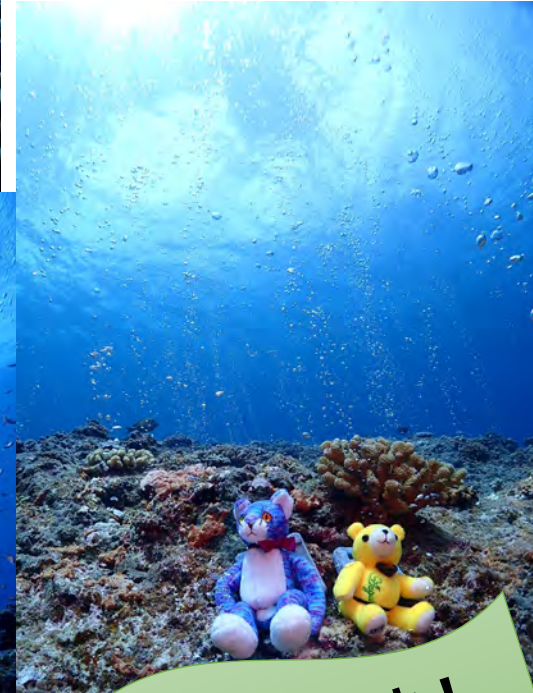
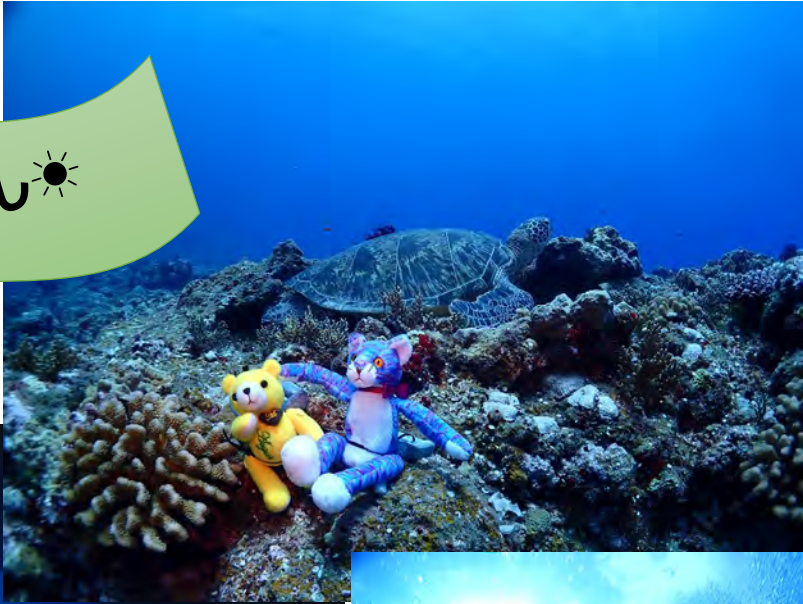
天気良し☀

僕たちは、
佐々木さんと西野さんの
ぬいぐるみだよ！



ライブまでに
中島さんが
編集してくれるよ！
乞うご期待！！

動画もあるよ！



⑧宮古島めぐり コース計画 6年 ゆきと さん

私が考えたコースのテーマ **自分が好きなコース**

誰のために考えたコースか
自分のため

なぜこの場所を選んだのか
自分が楽しみたいから

①
雪塩ミュージアム



*理由：雪塩ソフトクリームや雪塩サイダーが売ってるから

***食べた感想**

- 塩が入っているため思ったより甘ったるくありませんでした。
- 塩でも辛い塩とか様々ですが、優しい塩の味でした。
- アイスは、コーンとカップがありました。やっぱりアイスはコーンが一番。なぜだろう。
- ミュージアムでは、なぜ「雪塩」というかなどの説明をするコーナーが設けられています。ぜひ、聞いてみてください
- 雪塩という名前の商品がたくさんあります。ぜひ調べてみてください。
- 雪塩ブランドの商品は東京のどこかでも売っているようです。そして、アイスには色々な種類の塩をふって食べる人もいます。その塩の種類はたくさんあります。
- 雪塩と、普通の塩ではその作り方や値段も違うらしいですよ。いつもお客さんがたくさん来ているこのミュージアムはトイレも涼しいし、一日いても飽きない場所かもしれません。
- 雪塩サイダーはやはり最後に塩味がきます。暑いときに飲むのにおすすめです。

「なぜ、雪塩は優しい味なのでしょう？」

(甘さの最後にしょっぱい感じが残るけど、塩を感じてほしいという思いで塩加減に注意しながら作っている・・・南の島だからそのように感じる。甘いからしょっぱい感じを忘れる)

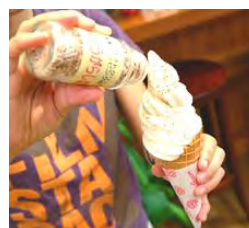
(暑い時は塩味のアイスクリームが食べたくなる、島のアイスといえば雪塩だ！)

(宮古島発祥のアイスクリームの魅力に再度気づくことができました)

→普段はあまり食べないので・・・

(クイズ)

私たちから竹内君へ、なぜ雪塩は普通の塩よりしょっぱくないのかわかりますか？調べてみてね。



②

島草履 作り



*理由：作るのが好きだから

- 島のぞうりに自分の好きなデザインを書いて、カッターナイフを使い掘ります。思ったよりも時間もかかり、カッターで掘ることがとても難しかったです。
- イラストは見本を見るのと自分のアイディアで描くのと両方でした。型を下書きした人と自由に書いた人に分かれました。
- 自分だけの草履が完成すると、南国の雰囲気味わうことができます。デザインを考えるのに時間がかかるので最初に考えておくの良いです。
- 初めての体験で最初は難しいと思いましたが、やっていくうちにはまっています。
- だんだん気持ちのめり込み楽しくなってしまう、みんな黙ったまま自分の世界に入って掘っていました。
- 島草履の歴史とかを知ってから、自分で作るともっと愛着がわくだろうなと感じました。
- 周りのお友達のデザインが気になりましたが、それもまた参考になります。
- 自分だけの草履は、これからも大切に履きたいな～と思い、つい、嬉しくなりました。
- 宮古の人たちの教え方が優しく、ゆったり穏やかで安心して作ることができました。
- 教えてくれる先生が営業開始時間になっても散歩に出ていて、なかなか始まりませんでした。でも、そのゆっくり流れる時間が島だからなのか、優しい自分でいられることが不思議でした。東京にいたら「開始時間を約束したじゃない！」と文句を言っていたかもしれませんね。

•ゆきとさんが宮古島(南の島)のデザインを草履に書くとしたら、どのようなデザインですか？

(クイズ)

- ビーチサンダルと島草

履は違うのかな？



一人だけ裏切って、牛の角でペンダントを作ったのは誰でしょうか。



③

料理作り



*理由：料理を作りたいから

- 伊良部島小学校の儀間先生のご実家で料理作りをして、それをお昼のご飯にしました。メニューは、フーチャンブルー、ニンジンしりしり、ゆしどうふとアーサーの味噌汁、ゴーヤーの煮物、なまり節、もずく酢、ジュシー、グアバゼリーでした。どんな食材かわかりますか？調べてみてね。
- 島野菜をたくさん使って、栄養満点の料理でした。
- どれもあっさり味ですが、コクがあってとってもおいしかったですよ。なかなか誰かの家の台所で料理を作る、という体験をしたことがないので、貴重でした。そして、同じ沖縄料理でも他の家庭の味を知ることができ、自分の家でも作ってみよう、と思いました（材料、味付けなど）
- 人数が多いとあっという間に完成する、そして楽しい。おしゃべりをしながら料理をするのもいいかもしれません・・・そしてみんなで作った料理はとってもおいしい。
- 沖縄の料理は自分で作ることもできます。

ぎま先生がメニュー表と作り方を手書きで書いてくれました。後で見てくださいね。

平良中学校（たいらちゅうがっこう）の先生からのコメントです。

「ゆきとさんはどんな料理を作りたいですか」

「ゆきとさんは誰と料理を作りたいですか？そしてそれはなぜですか？」

「この料理作りのお話を誰に一番に話したいですか？」

「料理作りの一番の楽しみは何ですか？」

（私は、家族全員で作ってみたいです。普段は私一人で作るから）

（私は、料理はどんな料理でも、作ってくれる人に感謝をして食べたいです）

（自分で作った料理を食べてもらうことに喜びを感じます）



これなんだかわかる？伊良部島の名産です。



④

宮古神社



*理由：お金を増やしたいから

- 宮古神社は、日本最南端の神社で、宮古島の人々は初詣や厄払いなどにお参りに行きます。
- 日本でいちばん南にある神社と言われています。
- 暑かったせいか、ほとんど人がいなくて静かでした。
- 島の中でも高台にあり、神社の後ろがすべて空なので、天空にそびえ立つ神社のように感じました。
- 宮古島の人たちみんなを神社が守ってくれています。
- 自分の住んでいる地域なのにわからないことも多く、いろいろと知っておくことって、大切だということに気づきました。
- 宮古島に行くと、この神社にはよく立ちよりますが、とってもすがすがしい気持ちになります。

(ゆきとさんに聞いてみたいこと)

「ゆきとさんならどんなことを心に思い、お参りしますか？」

「ゆきとさんの学校の近くには、どんな神社がありますか。またどんな神様がいるのでしょうか？」

ゆきとさんにもたくさんご利益（ごりやく）がありますように！！

宮古神社は何の神様のいる神社なのかな？東京や関東の神社と同じかな？



宮古神社の御朱印庁です。御朱印（ごしゅいん）って知っていますか？



⑤

私たちが選んだ5つ目の場所は

西の浜 ビーチ

宮古島に来たらやっぱり海でしょう！

西野浜ビーチは、どこにあるでしょう！地図で調べてみてくださいね。

宮古島の北部、西平安名崎（にしへんなみさき）の手前にあるビーチ。西平安名崎の風車と池間島（いけまじま）、池間大橋が一望できる絶好（ぜっけい）のロケーションで、エメラルドブルーに輝く海の色がとても美しい。夕日がきれいなところでも有名です。

海は遠浅なので、シュノーケリングというよりは、波打際をのんびり散歩するのに向いているかもしれません。

近くには「雪塩」の製塩所やお土産店、食堂などもあるので、海で遊んだついでに立ち寄るのもおすすめです。

*選んだ理由

青い海に感動してもらいたいなと思いました。そして、今日は竹内さんの作ってくれた宮古島コースをまわり、たくさんの体験をして胸いっぱいなので、少しのんびりと過ごしたいなと思いました。また、このビーチはあまり観光客の人が来ない地元の人が大切にしているビーチなので、とても静かで穏やか（おだやか）です。なので、今日一日の思い出を大切にできる場所だと思い、この場所を選びました。

そして、ウミガメが見られる場所として有名なんです。ひょっとして会えるかもと期待をしていたところもあります。ですが、残念、会えませんでした。



西の浜ビーチは狩俣（かりまた）地区にあります。ここでは、伝統文化として「追い込み漁」が宮古島の中

でも最後まで行われています。そのほかにも狩俣には神様がたくさんいます。もっと狩俣のことを調べて、大人になったら、ぜひ行ってみてください。



昼食はどこで何を食べましたか？

宮古島市立伊良部島（いらぶしま）小学校の4年生担任のぎま先生の実家で、⑩コースの皆さんと一緒に自分たちで作って食べました。

このコースに合わせて、この食事を選んだ理由

義間先生がせっかく宮古に来たんだったら、宮古の食材で体に良い料理がいいだろうとメニューを考えてくれました。島野菜がたくさん使っている食事でした。この写真にはありませんが、庭でなっているグアバの果物で作ったジュースをいただきました。

食べた感想(グルメレポート)

メニューは、とってもおいしくてほっぺが落ちそうでした。作り方を義間先生が手書きで書いてくれました。家で作ってみようと思います。

このコースを回ったメンバーの集合写真



～お昼の写真～



コースを考えた(ゆきと)さんにメッセージ

宮古島市立平良中学校のひさよ先生が代表してゆきとさんにメッセージを送ります。

まずは、好きなコースを考えてくれてありがとうございます。私は、宮古島生まれです。しかし子どもの頃の島とは違って今は、たくさんの方が変わっています。それは、建物が増えたり、移住者が増えたり、緑が少なくなったりと様々です。でも、変わっていないなあと思うのは「海」です。もしかしたら、海は変わっていないけど、海を見る私の思いは変わってきたかもしれません。

一度だけ、宮古島を離れ、14年間神奈川県に住んだこともありますが、宮古島を離れるまでは宮古島の良さに気づくことはなかったです。離れた後帰ってきて始めてその良さに気づきました。そしてまたずっと当たり前の生活が続き、久しぶりに雪塩ミュージアムに行ったり、アイスクリームを食べたりと、ゆきとさんが考えたコースをまわることで、改めて宮古島の海の青さ、人のあたたかさにふれることができましたよ。ありがとうございます。

自然「海」を見ると私は心が落ち着きます。この好きなコースは、なんと私の好きな場所と似ていました。ゆきとさんは何かを作ることが好きなようですね？

実は正直言うと、私は苦手です。でも、作ったあとの達成感はずごいですね。料理は普段はしますが、草履にデザインをし、自分だけのオリジナルの草履を作る体験は初めてでした。ゆきとさんのおかげで、宮古島の魅力に改めて気づきました。

気づかせてくれてありがとう。海といえば「宮古島」をずっと忘れないでほしいです。海は最高だよ！！(*^_^*)

最後にクイズです。

この写真の橋は、3540メートルです。

3450メートルには意味があるそうですよ。その意味とは何でしょう？



答えを書くらん

ヒント

宮古島の特徴といえば・・・

「海・空・子どもプロジェクト研究会」

2023年度 日本財団 海と日本プロジェクト

【報告会】

主催：海・空・子どもプロジェクト実行委員会

協力：日本財団「海と日本プロジェクト」

会場：東京都世田谷区立上祖師谷中学校



2023年度

海・空・子ども プロジェクト 研究会



「海・空・子どもプロジェクト」では、健康課題・特別な支援を必要とする児童・生徒に対し、「総合的な学習の時間」での海洋教育を主軸にした協働探究カリキュラム開発を行ってきました。

本研究会では、千葉県鋸南町にて健康課題のある児童が寄宿舎生活をおくりながら学んでいる東京都の特別支援学校（小学校）での実践等を報告します。また、ラウンドテーブルでは対話をとおして「個別最適な学び」について視野を広げるとともに、学校や子どもと連携することで社会に拓かれた教育について探究していきます。

日時 2024年2月10日（土）13：30～16：30

開場 東京都世田谷区立上祖師谷中学校 多目的ホール

東京都世田谷区上祖師谷7-10-1

京王線仙川駅 徒歩15分/小田急バス若葉町下車 徒歩10分

対象 全国の教員・教育関係者・教育に関心のある方

対面30名程度

参加費 無料

申込方法 下記QRコードまたはURLから申込みください

内容 13:30 挨拶

「海・空・子どもプロジェクト」実行委員会

代表 福島 昌子（福井大学総合教職開発本部 連合教職大学院 特命教授）

13:40 第一部 実践報告

「海・空・子どもプロジェクト」

14:40 休憩

14:50 第二部 ラウンドテーブル

16:15 全体シェア

16:30 終了



日本財団 THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT

助成：日本財団 海と日本プロジェクト

お申込みURL

<https://forms.gle/iUQ9ZMAiwhG543i57>



申込締切

2024年

2月3日(土)

【お問い合わせ】

海・空・子どもプロジェクト実行委員会 加藤

kato.satoru@center.spec.ed.jp

2023年度「海・空・子どもプロジェクト」研究会 実施要項

1 趣旨・目的

「海・空・子どもプロジェクト」では、健康課題・特別な支援を必要とする児童・生徒に対し、「総合的な学習の時間」での海洋教育を主軸にした協働探究カリキュラム開発を行っている。

今年度は、千葉県鋸南町にて健康課題のある児童が寄宿舎生活をおくりながら学んでいる葛飾区立保田しおさい学校での実践等を報告する。また、本研究会ではラウンドテーブルを実施し、対話をとおして、教育関係者だけではなく、さまざまな職種の人が「個別最適な学び」について視野を広げるとともに、学校や子どもと連携することで社会に拓かれた教育について探究し、資質向上に資することを目的とする。

2 主 催 「海・空・子どもプロジェクト」実行委員会

3 日 時 令和6年2月10日（土）13：30～16：30

4 場 所 東京都世田谷区立上祖師谷中学校 多目的ホール

5 内 容 「海・空・子どもプロジェクト」が2023年度に行った学校教育カリキュラム開発の実践報告及びラウンドテーブル

6 時 程

13：00	開場
13：30～13：40	開会挨拶 「海・空・子どもプロジェクト」実行委員会 代表 福島 昌子 (福井大学総合教職開発本部、連合教職大学院 特命教授)
13：40～14：40	実践報告 「海・空・子どもプロジェクト」実行委員会
14：40～14：50	休憩
14：50～16：15	ラウンドテーブル
16：15～	全体シェア
16：30	終了

7 参加者 定員30名程度

8 参加申込

2024年2月3日（土）までに下記URLもしくは右のQRコードからお申し込みください。

URL：<https://forms.gle/iUQ9ZMAiwhG543i57>



参加申込用 QR コード

9 担 当

海・空・子どもプロジェクト実行委員会

加藤 悟（埼玉県立川越初雁高等学校） Mail kato.satoru@center.spec.ed.jp

なお、本研究は「日本財団 海と日本プロジェクト」の助成を受けて実施している。

病弱・健康課題の児童における海洋教育協働探究の個別最適な学びの実践

ー「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発ー

○福島昌子¹ 西野明子² 加藤悟³ 前田香織⁴ 鈴木亜夕帆⁵ 堀井優⁶ 内村佐保莉⁷ 井筒大地⁸

1 福井大学総合教職開発本部、大学院教職開発研究科、2 東京都立墨東病院、3 福井大学連合教職大学院、4 埼玉県立川越初雁高等学校、5 千葉県立保健医療大学、6 立教女学院中・高等学校、7 東京都世田谷区立上祖師谷中学校、8 東京都葛飾区立保田しおさい学校

目的

中央教育審議会の答申（R3.1）「令和の日本型学校教育」では、新しい時代を見据えた学校教育として、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない「個別最適な学び」の実現、質の高い教育活動の授業・教育環境整備が求められた。しかし、療養により行動制限のある子どもたちにおいては、多様性、創造性の学びの環境が乏しく、個別最適かつ協働的な学びを具現化することは困難といえる。そこで「総合的な学習の時間」に多職種の大人が海洋教育を主軸に協働探究プロジェクトを考案し、病弱・健康課題のある児童の生きる力を育む教育を実践した。

方法

対象：東京都葛飾区立保田しおさい学校（千葉県安房郡鋸南町）、小学校4～6年生13名。

実施方法：授業内で、対面、オンラインを活用し、宮古島とリアルタイム接続で授業を実施。

時期：2023年4月～11月、「総合的な学習の時間」13時間

内容：①学校内での調べ学習と磯学習 ②児童による宮古島を巡るコースの考案 ③宮古島ライブツアー（海の安全、島の仕事、海の素晴らしさを学ぶ） ④児童の考案コースを巡る教員研修会の開催 ⑤沖縄県宮古島市伊良部島小学校4年生との授業発表・交流会 ⑥児童へのアンケートおよびインタビュー調査の実施。

結果

通常の授業の他に博物館の館長、宮古島海上保安部の方から海の自然保護、安全について学んだ。また教員研修参加者から「宮古島を巡るコース」の報告レポートを受け取り授業のまとめを行った。結果、授業終了後に実施したアンケートおよびインタビューでは、「印象深い授業」「楽しい授業」に磯学習、伊良部島小学校との交流会、宮古島ライブ等、主に体験的な学習が挙げられた。その一方で実際に経験が伴わない活動だとしても「宮古島コースづくり」の学びでは、知的好奇心、主体性、創造性など自己肯定を示す言葉や、大人との間接的な協働作業による充実感、満足感などの感想が多く見られた。（本プロジェクトは日本財団の助成を受けて実施した）

申込責任者

福島昌子（ふくしままさこ）

東京都豊島区南大塚2-38-1 MID POINT 大塚6-11

福井大学連合教職大学院東京サテライト

TEL080-2962-8102 E-mail：masakof@g.u-fukui.ac.jp kannachura@gmail.com

病弱・健康課題の児童における海洋教育協働探究の個別最適な学びの実践

—「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発—

加藤 悟（埼玉県立川越初雁高等学校）

西野 明子（東京都立墨東病院）

前田 香織（福井大学連合教職大学院）

鈴木 亜夕帆（千葉県立保健医療大学）

堀井 優（立教女学院中学校・高等学校）

内村 左保莉（東京都世田谷区立上祖師谷中学校）

福島 昌子（福井大学総合教職開発本部）

1 はじめに

中央教育審議会答申「令和の日本型教育」（令和3年1月）では、Society5.0時代の到来など子供たちを取り巻く環境が大きく変化する中で、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びを実現し、教育の質の向上を図る必要があるとされている。しかし、療養のより、行動制限のある子どもたちにおいては、多様性、創造性の学びの環境が乏しく、個別最適かつ協働的な学びを具現化することは困難と言える。そこで、他職種の専門家が、総合的な学習の時間で、病弱・健康課題のある児童を対象に、生きる力を育むことを目的としたカリキュラムの開発を行なった。

2 目的

健康課題のある児童に海洋教育を通して、児童の一人一人が離島の「宮古島を巡るコース」を考案することで自己の想像の扉を開き、個人の豊かな成長、社会性、コミュニティと社会化を培う。

3 対象児童

東京都葛飾区立保田しおさい学校(千葉県安房郡鋸南町) 特別支援学校小学部 4～6年生 13名

4 実施期間と授業の方法

令和5年5月から11月まで対面授業、オンライン授業、ハイブリッド授業

5 授業の実際

(1)知る

○自然保護について学ぶ

・サンゴの白化、マイクロプラスチック

宮古島近海で起きているサンゴの白化や海洋汚染について学ぶとともに、海は繋がっていることを意識させ、自分たちが海を守るためにできることを考える。



○地域の海を知る

・海釣り、磯学習

房総半島と宮古島の環境の違いによって生息する生物が異なることを知り、探究心を育てる。

(2)つくる

○宮古島散策のコースを作る

「誰のため」「なぜ、その場所」「なぜ、そのテーマ」なのかを主体的に考え、仲間や先生たちと協働でコースを作成する。



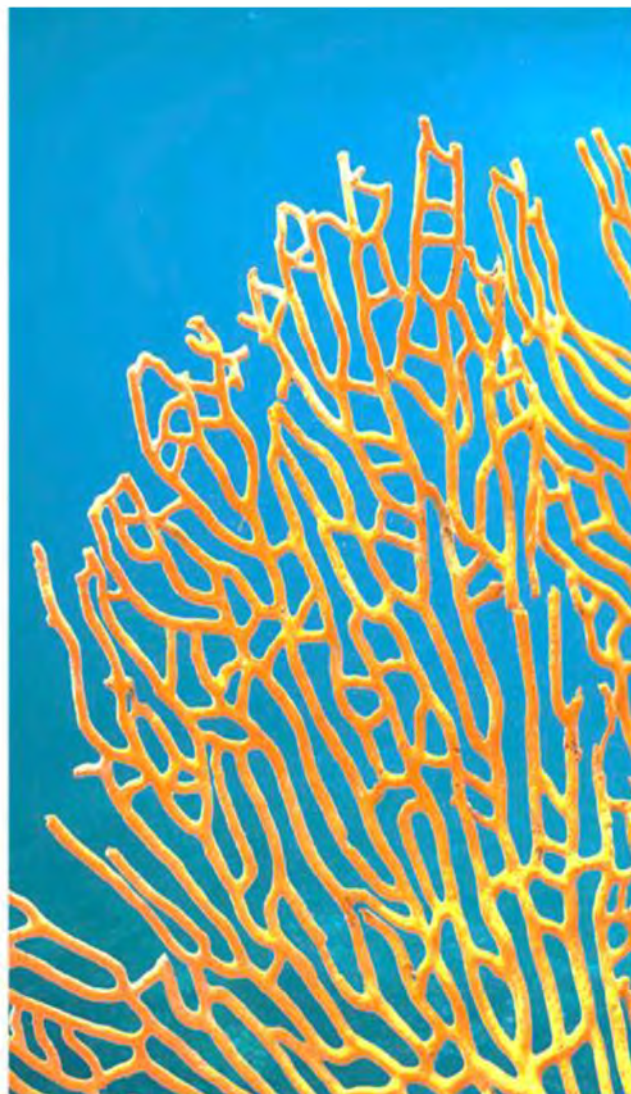
(3)宮古島ライブ

宮古島の人たちとライブでつながり、時間や空間を共有することで、子どもたちに自分ごととして捉えてもらう。



保田っ子、海と島をめぐる

葛飾区立保田しおさい学校



海・空・子どもプロジェクト実行委員会

Supported



海と日本
PROJECT



2023



Deep
Active
Teacher
Learning



海保やホテルの仕事を学ぶ 保田しおさい小児童 12 人 オンラインで全国初の取り組み



オンラインでつながっている児童らに巡視船の設備を説明する宮古島海上保安部の竹下健太管理課総務係長＝宮古島沖

海保やホテルの仕事を学ぶ 保田しおさい小児童 12 人 オンラインで全国初の取り組み

健康課題・特別な支援を必要とする児童・生徒の海洋教育協働探究カリキュラム開発プロジェクト（代表・福島昌子福井大学特命教授）の一環で東京にある葛飾区立保田しおさい学校の児童 12 人は 12 日、オンラインで宮古島海上保安部やホテル「ローカス宮古島」を訪れ、宮古島の海、海保やホテルの仕事について学習した。福島教授によると、こういった取り組みは全国初だという。

今回のカリキュラムは子どもたちの大事な「ぬいぐるみ」と福島教授らが行動を共にした。宮古島海上保安部では仕事の内容や巡視船の設備、職員へのインタビューで理解を深めた。ローカス宮古島ではホテルの仕事に加え、おもてなしの精神などについて説明を受けた。また、ダイバーが宮古島の海中に潜って撮影した昼と夜の様子の違いなどを勉強した。最後には、児童たちとバナナとバナナケーキを食べる「おやつタイム」が行われ、温かい雰囲気での授業は幕を閉じた。

参加した石井菜々未さん（4 年）は「宮古島の海を見ることができて、すごく楽しかった。私も宮古島に行って海に潜ってみたい」と感想を述べた。

福島教授は「試行錯誤の段階であるが、児童たちの表情を見ると何かしら学んでくれたのではないと思う。今後はいろいろな職業の人たちと関わって、子どもを育てていけるような授業が展開できたらいいと思う」と話した。

オンラインで宮古島探究

海保職員と「おやつタイム」楽しむ

海・空・子どもPJ

福井大学連合教職大学院 東京サテライト特命教授の 福島昌子さんが代表を務める「海・空・子どもプロジェクト」が12日、平良港などで実施された。東京都 葛飾区立保田しおさい学校の児童たちが考えた宮古島探究コースを巡った。宮古島海上保安部とホテルロイヤカスが協力し、巡視船乗船や職員のインタビューをラ

イブ配信で行った。

保田しおさい学校は、ぜんそく、病弱・虚弱児童等の健康回復のための特別支援学校。同プロジェクトで海洋教育協働探究カリキュラム開発を行っている。

今回のプロジェクトでは、同児童たちから預かったぬいぐるみと共に宮古島の自然を楽しんだ。巡視船「とぐち」の中では海保職員と「おやつタイム」をオンラインで行った。島バナナとバナナケーキを味わい、笑顔を見せていた。

児童たちは「海の中が見れてうれしかった。宮古島に行ったら海に潜りたいと思った」「巡視船にゴムボートが載っていることに驚いた。救助するために必要だと聞いて、その通りだと思った」などと感想を述べた。

福島さんは「初めての試みだったが、子どもたちの表情からは何かしら学んでくれたと感じた。いろいろな職業の方たちと関わりながら授業が展開できるようにしたい」と語った。



児童たちと一緒にバナナケーキを味わった＝12日、巡視船「とぐち」

2023年9月6日 第三種郵便物認可

(1)

海保やホテルの仕事学ぶ

保田しおさい 校児童12人 オンラインで全国初の取組

健康課題・特別な支援を必要とする児童・生徒の海洋教育協働探究カリキュラム開発プロジェクト(代表・福島昌子福井大学特命教授)の一環で東京にある葛飾区立保田しおさい学校の児童12人は12日、オンラインで宮古島海上保安部やホテル「ローカス宮古島」を訪れ、宮古島の海、海保やホテルの仕事について学習した。福島教授によると、こういった取り組みは全国初だという。

今回のカリキュラムは子どもたちの大事な「ぬいぐるみ」と福島教授らが行動を共にした。宮古島海上保安部では仕事の内容や巡視船の設備、職員へのインタビューで理解を深めた。ローカス宮古島ではホテルの仕事に加え、おもてなしの精神などについて説明を受けた。また、ダイバーが宮古島の海中に潜って撮影した昼と夜の様子の違いなどを勉強した。最後には、児童たちとバナナとバナナケ

ーキを食べる「おやつタイム」が行われ、温かい雰囲気です。授業は幕を閉じた。参加した石井菜々未さん(4年)は「宮古島の海を見るのができて、すごく楽しかった。私も宮古島に行って海に潜ってみたい」と感想を述べた。福島教授は「試行錯誤の段階であるが、児童たちの表情を見ると何かしら学んでくれたのではないかと思う。今後はいろいろな職業の人たちと関わって、子どもを育てていけるような授業が展開できたらいいな」と話した。



オンラインでつながっている児童らに巡視船の設備を説明する宮古島海上保安部の竹下健太管理課総務係長＝宮古島沖

執筆・写真

保田しおさい学校 児童
細野 新太 中尾 陽翔 大井 誠人 鈴木 琥春 石井 奈々未
藤井 基 三田 新 竹内 幸斗 指宿 健 原田 鳳雅
小川 航平 伊藤 忍

教職員
加賀美 学 小川 玄 井筒 大地 菊川ひかり 湯川 真奈美

協力者

福本 拓也 (第十一管区海上保安本部 宮古島海上保安部 部長)
平川 雄一 (宮古島海上保安庁 次長)
儀間 裕勝 (宮古島市立伊良部島小学校 4年生担任)

プロジェクト 企画・実施指導

福島 昌子 (福井大学総合教職開発本部/連合教職大学院 特命教授)

ぬいぐるみプロジェクト リーダー

羽来 HAKU (海・空・子どもプロジェクト実行委員会)

プロジェクト 実施

西野 明子 (東京都立墨東病院高度救命救急センター)
鈴木 亜夕帆 (千葉県立保健医療大学)
前田 香織 (福井大学連合教職大学院)
平沢 安正 (福井大学連合教職大学院 渋谷区教育委員会)
平良 善信 (沖縄県宮古島市教育研究所)
伊藤 康弘 (さくら認定こども園)
伊藤 仁美 (森田さくらこども園)
内村 佐保莉 (世田谷区立上祖師谷中学校)
加藤 悟 (埼玉県立川越初雁高等学校)
堀井 優 (立教女学院中学校・高等学校 教員)
幸地 和夫 (宮古島海宝館)
幸地 博美 (宮古島海宝館)
佐々木 舞子 (元 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)
中島 直樹 (コナミグループ)
鹿島 将 (DIVING SHOP 海猿)
鹿島 美紀 (DIVING SHOP 海猿)
山本 直志 (ホテル ローカス宮古島)
吉田 美穂 (ホテル ストレータ那覇)

協力施設

第十一管区海上保安本部 宮古島海上保安部
宮古島海宝館
HOTEL LOCUS 宮古島



羽来
(HAKU)

